

経営比較分析表（平成29年度決算）

静岡県 御前崎市

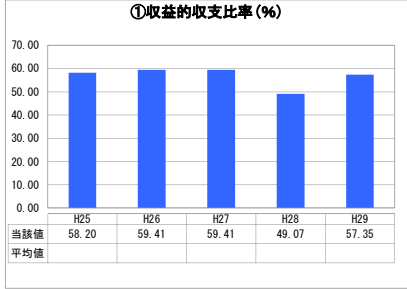
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	22.11	93.84	1,728

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
33,192	65.56	506.28
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
7,294	4.64	1,571.98

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



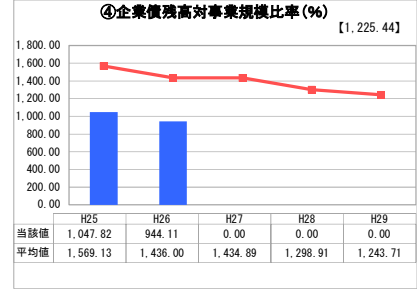
「単年度の収支」



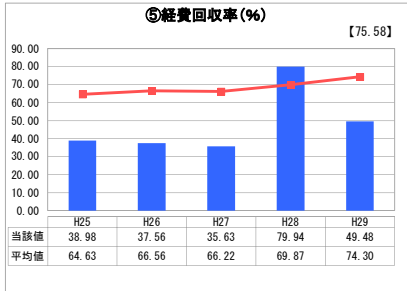
「累積欠損」



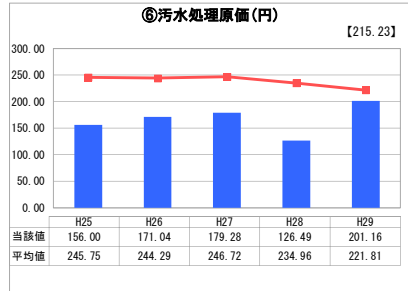
「支払能力」



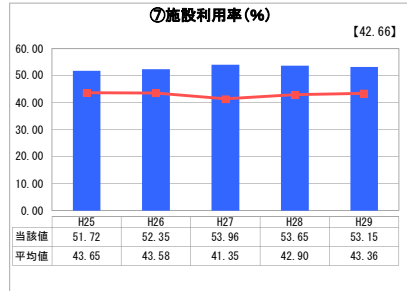
「債務残高」



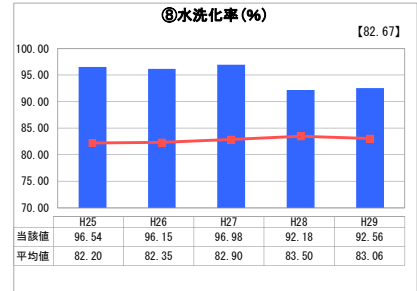
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

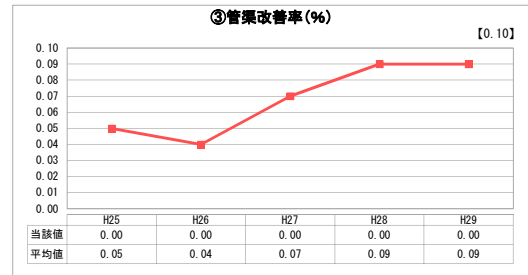
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

処理区域内の面整備が概成されており、現在は維持管理を主体とした事業運営の状況にある。経営面をみると、類似団体に比べ使用料金を低くおさえており、維持管理費を料金収入で賄っておらず、一般会計繰入金に依存した不健全な経営状況である。収益的収支比率は平成28年度に比べ、繰入金の増加により上がった。汚水処理費が増加したため、経費回収率は下がり、汚水処理原価が増加した。企業債残高対事業規模比率については、平成27年度より一般会計からの繰入金を反映させたため0となっている。なお、平成28年度に数値の精査を行い、公共下水と特定環境保全の比率をより正しい数値に変更したため、平成27年度に比べ経費回収率、汚水処理原価の数値が変動している。

2. 老朽化の状況について

現在は管路更新実績がないが、今後はストックマネジメント計画に沿った効率的な維持管理に努める。

全体総括

使用料金の見直しを検討するなど独立採算の原則を意識した企業経営に留意する必要がある。また平成31年4月からの公営企業会計への移行に伴い、経営戦略を策定し、経営改善に努める。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。